

出張報告

報告日

令和5年7月18日

会派名	柏崎の風
報告者氏名	星野正仁、春川敏浩、山本博文、近藤由香里、三嶋崇史
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	全国地方議会サミット2023
日時	令和5年7月5日（水）13:00～18:00 7月6日（木）10:00～16:00
場所 （会場）	早稲田大学大隈講堂
調査項目等	
概要	<p>■1日目（7月5日）</p> <p>基調講演</p> <p>◆■■■■ 早稲田大学名誉教授、元三重県知事 「激変する時代に対応する議会を実装せよ」</p> <p>特別講演</p> <p>◆河野 太郎 デジタル大臣 「デジタルで変わる社会 地方と議会への期待」</p> <p>*セッション「デジタルで変わる自治体・政策」</p> <p>◆■■■■ 都城市総合政策部デジタル統括課 「マイナンバーカード交付率9割超え 都城市のデジタル戦略」</p> <p>◆■■■■ 横須賀市デジタル・ガバメント推進室 「ChatGPT 自治体活用実証 横須賀市のデジタル戦略」</p> <p>◆■■■■ 県立長野図書館長 「全国初 県内全77市町村との協働電子図書館『デジとしょ信州』」</p> <p>◆■■■■ 株式会社メディアドゥ 電子図書館推進センター 「デジタル図書館とアクセシブルライブラリー」</p> <p>*セッション「オンラインとデジタルを活かす」</p> <p>◆■■■■ 東北大学大学院准教授 都道府県議会デジタル化専門委員会座長 「議会デジタル化の必要性 ChatGPTなどの生成系AIとどう向き合うか」</p> <p>◆金澤 克仁 取手市議会議長 「デジタル・オンライン活用最前線 AI活用による議会の視覚化と市民参画」</p> <p>◆■■■■ Gcom ホールディングス まちだん担当 「デジタルで変わる市民と議会 まちだん宮崎市議会 DX実証実験より」</p>



***セッション「デジタルが拓くあたらしい民主主義」**

- ◆■■ ■■ 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長
「Society5.0時代のあたらしい民主主義」
- ◆五十嵐 立青 つくば市長
「つくば市が取り組む選挙DX インターネット投票実証実験より」
- ◆■■ ■■ 芽室町選挙管理委員会事務局書記長
「選挙後（無投票選挙）も選挙公報を有権者へ届ける取組」
- ◆川久保 皆実 つくば市議会議員
「新しいスタイルの選挙運動を全国に！『選挙チェンジチャレンジの会』の取組」

■2日目（7月6日）

***鼎談「地方分権の20年とこれからの10年を展望する」**

- ◆■■ ■■ 早稲田大学名誉教授 元三重県知事
- ◆■■ ■■ 大正大学教授 元総務大臣
- ◆廣瀬 克哉 法政大学総長



***セッション「政策議会の一般質問」**

- ◆■■ ■■ 法政大学教授
- ◆西原 浩 別海町議会議員
- ◆青野 敏 鷹栖町議会議員
- ◆片山 兵衛 鷹栖町議会議員

***セッション「自治体監査と議選監査委員を活かす」**

- ◆■■ ■■ 大正大学教授
「政策サイクルと政策財務」
- ◆川上 文浩 可児市議会議員 議選監査委員
「議選監査委員の活かし方 行政のかかりつけ医」
- ◆■■ ■■ 鎌倉市監査委員事務局長 前議会事務局議事調査課長
「監査委員事務局との連携 自治体監査・議選監査の活かし方」
- ◆子籠 敏人 あきる野市議会議員 議選監査委員
「議選監査委員を活かす」

***セッション「政策につよい議会をつくる」**

- ◆菅原 由和 奥州市議会議員
「政策決議提案とガイドライン」
- ◆■■ ■■ 前大津市議会局長、早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員
「大学連携とミッションロードマップによる政策立案」
- ◆■■ ■■ 関東学院大学教授
「議会における政策づくりと政策法務」

宣言・総括

所感等

【星野 正仁】

「デジタルで変わる自治体・政策」では、都城市のマイナンバーカードの普及啓発及び活用と戦略とても参考になった。成果報告された各自治体の取り組みは、今まで多くの課題のあった分野の改善につながると拝聴した。柏崎でもデジタル化を推進し課題の改善につながる提言を推進していきたい、
「デジタルを活かした取り組み」では、特に「chatGPT」の活用はとても興味深く拝聴した。今後自身でも活用をしたいと考え当局にも提案したいと考える。また AI を活用しての議会の取り組みも参考になった。

「デジタルが拓くあたらしい民主主義」では、デジタル選挙の取り組み状況である。とても先進的で今後このように変わると考えるが柏崎で取り組むには従来の手法との併用と考える。

「政策議会の一般質問」では、とても分かりやすい説明で今後の一般質問の課題の考え方、原稿作成の参考にしたい。

「自治体監査と議選監査委員を活かす」では、自身も今年度から監査委員となりどう取り組んでいくのか考えていたが今回の話を聞いて大いに参考になった。今後の活動に活かしていきたい。

「政策に強い議会をつくる」では、今までの議会活動の多くはチェック機能だったがこれから求められるのは政策提言と考える。その為には個人の資質を向上させ議会全体で政策提言や条例制定が出来る議会をつくりたいと考える。

【春川 敏浩】

今回の最大のテーマである「DX・デジタル時代に対応する議会」すなわち、デジタルで変わる社会、地方議会への期待と題して、河野太郎デジタル大臣からのビデオメッセージが紹介された。

コンビニでの住民票サービスで通常の役所窓口での手数料が200円となる。マイナンバーカードの普及促進が9割を超えた、都城市の事例が紹介された。

県立長野図書館では、電子図書による書籍の貸出サービスを実施し図書館に行かなくても365日24時間、貸出ができ、文字の拡大もでき、好評である。

取手市議会では、議事録はAIシステムを活用した効率的な見える化で、市民への公開を分かりやすく開示している。さらに、オンラインを活用した市民との意見交換会を実施し、住民参加型議会であり本市でも十分検討したい。

つくば市では、インターネット投票を2018年～2020年度の3年間技術検証を実施した。つくば Society 5.0 社会実装トライアル支援事業の最終審査でインターネット投票を実施し、県立高校の生徒会でも実施した。インクルーシブな社会の実現を目指すとしている。

北海道野の鷹栖町、別海町では、一般質問を通告前に全議員で質問内容の争点を討議し議員で共有する。

今回の研修では、地方議会でのDXを活用した議会活動の資する体制を強化すべき内容であった。

【山本 博文】

「デジタルで変わる自治体・政策」ではどこの自治体もChatGPTやデジタルを活用して行政の効率化を図ってすすめている状況が伺えた。その中で長野の取り組みとして県内77市町村との協働電子図書館の取り組みは宝くじの補助金を活用して経費をかけずに、コンテンツの利用をされている点が良かった。そして、視覚障害者に対するケアを考えていた点も参考になった。

「デジタルを活かした取り組み」についても、職員の離職率にも触れていて同じ悩みを抱えている部分があった。また、取手市議会の取り組みとして議事録の見える化について、AIシステムを導入し、議事録の作成を図って効率的運用されている点が参考になった。

「デジタルが拓くあたらしい民主主義」については、つくば市の五十嵐市長が直接説明されたが公職選挙法等の規制があり、インターネットによる投票が出来ないため、高齢者、障害者のケアとしての投票方法の考え方は参考になった。

「政策議会の一般質問」の取り組みについては北海道の鷹栖町、別海町の取り組みは参考になり、通告前に全議員で各質問内容の争点を討議し、各自内容を再検討し提出することにより、執行機関に通告することで議会、議員の成果に繋がったとのことだった。特に週刊誌広告のような一般質問チラシは驚いた

「自治体監査と議選監査委員を活かす」については、議選の監査委員の活かし方として、可児市議会の取り組みは議会への報告を行っていて個人情報以外はOkという

考え方を取っていて他市議会の裁判事例もあり取り扱いが難しいと感じた。

「政策に強い議会をつくる」では、岩手県奥州市議会の取り組みが政策立案・政策提言サイクルの充実、強化により提言した政策提案が成果を上げている実例が大変参考になった。

【近藤 由香里】

研修 1 日目は自治体・議会のデジタル化、2 日目は政策議会をテーマとして、先進事例や専門的知見に触れる機会となった。

冒頭の■■先生による基調講演では、地方政策や地方議会改革が国政に波及することもあり、「地方から国を変える」ためにも切磋琢磨して各地方議会が政策実現力を高めることが重要だと学んだ。また、河野 太郎 デジタル大臣の特別講演では「デジタル化の目的は、人と人が寄り添う温かい社会の実現である」との言葉が印象的であり、デジタル導入を目的化しないよう留意しなければならないと感じた。

「デジタルで変わる自治体・政策」では、マイナンバーカード普及による利便性向上、生成AIを自治体業務に活用する事例（アンケート文面作成等）が紹介された。全てをデジタルに置き換えるのではなく、人がやるべきこと＝アナログと、デジタルによって利便性・効率性が高まることの整理が重要だと感じた。また、長野県と市町村の協働電子図書館の取組は、公共図書館空白地域の住民や、視覚に障害がある方々に対する情報格差解消策として参考にしたい。

「オンラインとデジタルを生かす」では、議会全体がデジタル化の必要性を共有するためには、「効率化」を前面に出すのではなく、災害対応や多様な市民との意見交換のためのツールとして、「危機に強い議会」「開かれた議会」を目標とすることが重要だと理解した。また、アナログとデジタルを併用するハイブリッド型の意見交換会や視察を、柏崎市議会においても検討すべきと感じた。

「デジタルが拓くあたらしい民主主義」では、公職選挙に係るデジタルツールを、投票所に行くのが難しい高齢者等を対象とし、有権者誰もが選挙権を行使できる手段として捉えているのが印象的だった。また全国的に地方議員の成り手不足が課題となっている中、従来とは異なる選挙手法で多様な候補者を募る「選挙チェンジチャレンジの会」の取り組みは、地方政治における新たな価値観の創造につながると感じた。

鼎談の「地方分権の20年とこれからの10年を展望する」では、■■先生の講話が印象に残る。知事時代は議会と是々非々で対峙し、議案の修正・否決も少なからずあったが、住民の意思が反映された結果として受け止めたという。二代表制の本質を理解し、住民の代表・負託を受けている自覚を持って、議会活動に臨むことが必要だとあらためて実感した。

「政策議会の一般質問」では、＜チーム議会＞として一般質問を議会全体で共有し、行政に対して提案することで、政策実現を目指す議会の事例が紹介された。一般質問の通告前に検討会を行い、それぞれブラッシュアップして「議会としての一般質問」に臨み、議員個々のスキルアップ、議会の活性化につながっている。素晴らしい取り組みだが、一般質問に対する捉え方は議員個々で異なるため、柏崎市議会において同様に行うのは現時点では難しいと感じる。ただし一般質問の重複が多々あることから、通告前に会派を超えて論点を整理してもよいのではないかと思う。

「自治体監査と議選監査委員を活かす」では、議選の監査委員は特に決算審査においては「何も言えない」とされているが、議員という属性を生かして、監査委員による詳細な現場確認により、市政の改善を図る事例が紹介された。また議会と監査委員との意見交換会や勉強会の機会を持ち、行政の現状や課題について理解を深めることも可能とのことである。前例踏襲主義に陥ることなく、議選監査委員の存在を議会の強みとできるような働きかけが重要と感じた。

「政策に強い議会をつくる」では、議会として政策立案に向けた具体的な事例報告を受けた。また現状に合わない首長提案の条例の改正や条例案の修正も議会の役割であることから、議会事務局の法務は重要であることも学んだ。柏崎市議会においても、3 常任委員会で提言に向けた調査・研究を進めているが、これらの事例を参考に、仕

組みづくりや体制強化ができると思う。

全日程を通して内容の濃い充実した研修であった。地方議会の政策＝ローカルマニフェスト実現を通して市民福祉の向上につなげられるよう、自らのマインドとスキル両面において、更に精進したいと感じた。

【三嶋 崇史】

初めて全国議会サミットに参加して、議会の在り方、考え方など学び多き研修会であった。早稲田大学名誉教授である■■氏より冒頭の挨拶で本研修会の趣旨説明があり、「地方議員から地方を変え、地方から国を変える」と強い信念のもとマニフェストを作成し訴え続けているとのことだった。議会は民意を反映させ、対等で公平な役割を果す事が重要であると述べた。

「デジタルで変わる自治体・政策」では先進的に取り組んでいる3市より報告があった。都城市では、市民の幸福及び市の発展を図る事を目的にデジタル化を推進している。市長を最高デジタル責任者として組織し、人材育成、予算確保など令和3年度から5年間で100事業を実施予定している。市民目線でサービスを向上させ、難しい技術ではなく、使いやすい技術を提供している点が素晴らしい取り組みである。

横須賀市のChatGPTの導入については、今年に入り「ChatGPT」がメディアに取り上げられるようになり、いち早く活用検討チームが立ち上がる。全職員を対象にアンケートを実施し、活用についての意見集約に取組、8割以上が仕事効率の向上につながると回答があった。この結果はとても興味深くChatGPTを検討している自治体には参考になる。

次に長野県立長野図書館の進める県内全77市町村との協働電子図書館「デジとしょ信州」の取組、スケール間に衝撃を受けた。図書館の在り方を分析し、学校教育の情報化、感染症災害時、読書バリアフリーなど協働電子図書館を推進するため、全ての県民が気軽にいつでも無償で必要とする情報をアクセスできる環境を整え、持続的に発展させるデジタルの可能性を地域づくりに活かした事例に感銘を受けた。

二日間の研修会を通し、住民要望が議会の責務であり、地方議員は住民とのつながりが大切である。良心と自覚、法の下、ロジカルに住民説明、伝える力が重要であると感じた。